

令和5年度 厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））  
総括研究報告書

研究課題名：多様な現場での国際生活機能分類（ICF）の円滑な実用化及び  
統計への応用に向けた研究

研究代表者：向野 雅彦（北海道大学病院リハビリテーション科 教授）

研究分担者：山田 深（杏林大学医学部リハビリテーション医学講座 教授）

研究分担者：小松 雅代（大阪大学 大学院医学系研究科社会医学講座環境医学 助教）

研究要旨：国際生活機能分類（ICF）は、人の健康の基礎となる生活機能を包括的に分類する枠組みとして、ICDとともにWHOにおける中心分類に位置づけられている。ICFは生活の中での活動への影響が記載することができるため、疾病や災害等が社会に与えるインパクトを生活への影響の面から表現するのに適しており、疾病統計の充実に寄与することが期待される。

しかし、ICFは1600を超える項目数の多さ、分類項目の説明のわかりにくさ等により実用においては課題が多く、これまでの研究により概念の普及や活用例の検討は進んだものの、国レベルの標準的な評価手法の確立や統計への活用には至っていない。そのような中、2019年に採択されたICD-11では、疾病に関する本体部分の分類に加え、生活機能評価に関する補助セクションであるV章が追加された。このV章はICFのダイジェスト版としての側面を持ち、現場への導入に向けた環境が整いつつある。

そこで、本研究ではICD-11V章およびICFの実用化および疾病統計への応用方法の検証のため、以下3点を主要なテーマとして研究に取り組んでいる。まず、1) ICFのダイジェスト版であるICD-11V章の項目群をベースとして過去の研究で作成された項目セットのブラッシュアップを行うとともに、フィールドテストによる検証を行う。次に、2) これまで検討されてきた、臨床で用いられている評価スケールの情報をICFに集約する手法を具体化し、実際のデータを用いた検証を行う。さらに、3) ICFおよびICD-11V章の実用をサポートする教育資料の作成を行い、普及のサポートを行う。今年度は、1) 既存の評価スケールのICFへの紐付けと点数換算の試行、2) 項目セットのブラッシュアップの実施、3) 教育資料の暫定版の作成を行った。

## A. 研究目的

国際生活機能分類（ICF）は、人の健康の基礎となる生活機能を包括的に分類する枠組みとして、ICDとともに世界保健機関（WHO）において中心分類に位置づけられている。ICDでは疾病に関する情報がコードされる一方、ICFは生活の中での活動への影響が記載することができるため、その社会に対するインパクトを含め、疾病統計の充実に寄与することが期待される。しかし、ICFは1600を超える項目数の多さ、分類項目の説明のわかりにくさ等により実用においては課題が多く、これまでの研究により概念の普及や活用例の検討は進んだものの、国レベルの標準的な評価手法の確立や統計への活用には至っていない。そのような中、2019年に採択されたICD-11では、疾病に関する本体部分の分類に加え、生活機能評価に関する補助セクションであるV章が追加された。これは、ICFよりはるかに項目数が少なく、ICFの導入編としてICDと組み合わせることで疾病統計への生活機能情報の付与に役立てることが期待されている。

これまでに国内では、厚生労働省社会保障審議会生活機能分類専門委員会生活機能分類普及推進検討ワーキンググループにおいて、各項目のわかりやすい説明文や採点支援ガイド、アプリケーション等の支援ツールが作成され、さらにフィールドテストによりその妥当性の検証が実施されている。また、既存の臨床スケールの情報をICFに集約する手法の検討も進められている。これらを通じ、新たな評価手法であるV章の現場への導入に向けた環境が整いつつある。

これらの状況を踏まえた上で、本研究ではICD-11V章およびICFの実用化および疾病統計への応用方法の検証のため、以下3点を主要なテーマとしている。まず、1) ICFのダイジェスト版であるICD-11V章の項目群をベースとして過去の研究で作成された項目セットのブラッシュアップを行うとともに、フィールドテストによる検証を行う。次に、2) これまで検討されてきた、臨床で用いられている評価スケールの情報をICFに集約する手法を具体化し、実際のデータを用いた検証を行う。さらに、3) ICFおよびICD-11V章の実用をサポートする教育資料の作成を行い、普及のサポートを行う。

今年度は計画に基づき、1) 既存の評価スケールのICFへの紐付けと点数換算の試行、2) 項目セットのブラッシュアップの実施、3) 教育資料の暫定版の作成を行った。

## B. 研究方法

### 1. 既存の評価スケールとICFの項目対応表の作成と点数換算の試行

#### 1-a. 既存の評価スケールとICFの項目対応表の作成

これまで厚生労働省社会保障審議会生活機能分類専門委員会生活機能分類普及推進検討ワーキンググループにおいて、Functional Independence Measure (FIM) および Barthel Index の各項目に対応するICD-11V章およびICFの分類項目を同定する検討が行われているが、その手法を踏襲し、さらに健康関連QOLの測定尺度としてのEQ5D、FIMやBarthel Indexよりも応用的な日常における活動を示す手段的日常生活活動（Instrumental Activities of daily living: IADL）の測定指標としてのIADL尺度およびFrenchey Activity Index (FAI) を対象に項目対応表の作成を行った。

項目対応表の作成にあたっては、ワーキンググループで作成されたリコードにおける以下の対応表作成ルールに基づいて実施した。

- 1) 二人以上の研究者が独立して対応するICF（もしくはICD-11「V章」）の項目を検討し、協議を経て決定する。
- 2) 項目の対応は、第二レベルを基本とする。
- 3) リコードの対象となる評価尺度の1項目に対し、対応するICF（もしくはICD-11「V章」）の1項目を同定することを基本とする。ただし、協議の結果、内容が複数項目に及んでおり1つに絞ることが難しいと判断された場合には、2つ以上の項目を対応項目として挙げることを許容する。

#### 1-b. 既存の評価スケールとICFの点数換算表の作成

一般的によく用いられている評価表からBarthel Index および IADL 尺度における点数換算表の作成に取り組んだ。点数換算表の作成は、前年度に厚生労働科学研究費研究班（地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究：令和2-4年度、代表者：大冨賀正昭、向野雅彦）において実施した、FIMとICFとの点数換算表の作成プロセスを踏襲し、リハビリテーション専門職に対するアンケートをベースに実施した。プロセスは以下の通りである。

- 1) リハビリテーション専門職を対象に、既存のスケールの点数それぞれが、ICFの評価点において何点に相当するか、アンケートを実施する。

2) アンケートの結果から、例えば当該スケールの1点と等しいとされたICFの評価点の中央値および平均値を算出し、代表値とする。

## 2. リハビリテーション及び福祉における実用的な項目セットのブラッシュアップ

厚生労働科学研究費ICF研究班（地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究：令和2-4年度、代表者：大冢賀正昭、向野雅彦）において、ICFのダイジェスト版であるICD-11V章の項目を使ってリハビリテーション専門職に対するアンケートを実施し、実際の生活における重要性の高い項目を検討した上で、その結果をもとに項目セットライブラリの草案が作成された。しかし、臨床ではさまざまな評価スケールが広く用いられており、その情報も重要である。本検討では、さらにそのブラッシュアップを行うため、専門家パネル（医師2名、PT2名、OT2名）を設置し、これまでの項目セットライブラリ案と代表的な評価スケールと比較を行い、フィールドテスト実施に向けた項目セットライブラリ案のブラッシュアップを実施した。

## 3. 暫定版のICD11V章/ICFコーディングマニュアルの作成

これまでに作成されたICD11V章のリファレンスガイドをもとに、実際に臨床で使いやすいようにICD11V/ICFコーディングマニュアルの解説資料の作成を行った。今年度は専門家パネル（PT2名、OT1名、ST1名）を設置してドラフトを作成し、ICF専門家2名のレビューを経て暫定版を作成することとした。

解説資料はICFおよびICD-11V章の概要の解説とともに、コーディングマニュアルの紹介、コーディングの原則およびICFの応用についての解説から構成することとした。

## C: 研究結果

### 1. 既存の評価スケールとICFの項目対応表の作成と点数換算の試行

#### 1-a. 既存の評価スケールとICFの項目対応表の作成

対応表作成ルールに基づき、健康関連QOLおよびIADLの測定尺度としてのEQ5D、IADL尺度およびFAIの項目対応表を作成した。作成した対応表を資料1に示す。

#### 1-b. 既存の評価スケールとICFの点数換算表の作成

7病院、62名のリハビリテーション専門職（平均年齢36±8、男性55名/女性7名、医師4名/PT30名/OT23名/ST5名）が調査に参加した。Barthel IndexおよびIADL尺度の各項目の点数と、それに相当するICFの評価点についてのリハビリテーション専門職の回答の分布を資料2に示す。ICFの評価点が0~4の5段階であるのに対し、Barthel Indexが2~4段階、IADL尺度が2段階のスケールであるため、ICFの評価点それぞれに対し、対応するBarthel IndexもしくはIADL尺度の点数の中央値を算出することで換算式を作成した。一回目の調査においてサンプル数が必要数を満たさず、さらに、現在追加調査を実施中である。

#### 2. リハビリテーション及び福祉における実用的な項目セットのブラッシュアップ

ICD-11V章をベースとして作成した項目セットライブラリと臨床で使用頻度の高い評価スケール（FIM、Barthel Index、EQ5D、IADL尺度、FAI）との項目対応表を資料3に示す。評価スケールの項目の一部はICD-11V章に独立した分類項目として含まれていないことが明らかとなった。項目セットの名称（共通セット/最小評価セット/基本セット/拡大セット）が最小評価セットが最小でないなどわかりにくいとのフィードバックがあった。また、比較に用いた指標は、比較的国内外の調査において使用される頻度の高いスケールであり、これらの一部または全部を含むことで統計上の比較可能性を高める可能性があることが指摘された。特にFIM、Barthel Index、EQ5Dについては多くの公的保険に用いる計画表、調査票等にも採用されている点を踏まえ、専門家パネルにおいて議論した結果、以下の点の修正を加えることとした。

1) 名称を最小セット/短縮セット/標準セット/拡張セットとする。

2) 短縮版セットにBarthel Indexに含まれる項目を全て含むように修正。VW14 自宅内の移動はVW13およびVW15と重複するため除外。

3) 標準セットにFIMに含まれる項目（一部の患者のみが対象となるd315 非言語的メッセージの理解 およびd335 非言語的メッセージの表出を除外）を含むように修正。またICF一般セットの6項目（7項目のうち就労可能年齢のみが対象となるd850報酬を伴う仕事を除いたもの）を含むように修正。

4) 拡張セットにEQ5D、IADL尺度の項目を追加。  
5) ただし、ICD-11V章に含まれない項目についてはオプションにする。  
修正した項目セットを資料4に示す。これらを次年度のフィールドテストで検証する予定とした。

### 3. 暫定版のICD11V章/ICFコーディングマニュアルの作成

資料の構成は、第1章でICFとICD-11およびV章についての解説、第2章でコーディングガイドの紹介およびコード化方法の解説を記載する形式とした。これまでに作成されたICD-11V章のコーディングガイドを評価方法が類似する項目をICFの章に従って以下のような項目グループにまとめ、それぞれについて基本となるコーディングの原則を定義した。

- 1) 心身機能1章～8章
- 2) 活動と参加1, 2章
- 3) 活動と参加3章
- 4) 活動と参加4, 5章
- 5) 活動と参加6, 8, 9章
- 6) 活動と参加7章

V章に含まれない身体構造と環境因子についてはガイドが存在しなかったが、今回作成を行うにあたっては、心身機能と活動と参加のガイドを参考として身体構造と環境因子のガイドについても暫定版の作成を行った。内容については、次年度にさらに検証を実施することとした。

### D: 考察

#### 1. 既存の評価スケールとICFの項目対応表の作成と点数換算の試行

今回換算表を作成することで、実際に臨床で用いられている疾患横断的なADL、IADL、健康関連QOLの尺度の情報を、ICFに集約する仕組みの作成に向けて、具体的な方向性を提示することができた。さらに、臨床の場で評価スケールで評価している内容でもICD-11V章でカバーされていない分野もあることが明らかとなり、ICD-11V章だけでなく、より詳細な情報の集約にはICFを活用することが必要であることが示唆された。以上の結果は、ICD-11V章およびICFの活用を進める上で重要な示唆を与えるものである。

ICFは普及に向けて推進されている段階であるが、生活機能の情報を統一された枠組みに集約し、相互比較できる仕組みを構築することは、患者中心の医療・福祉を実現する上でも重要である。次年度にはより実用的になるよう、枠組みを拡張する予定である。

#### 2. リハビリテーション及び福祉における実用的な項目セットのブラッシュアップ

実際に臨床で用いられている評価スケールは臨床におけ実地的な情報ニーズを反映していると考えられ、臨床で重要となる生活機能情報の内容を検討するにあたって、重要性が高いと想定される。今回、現在臨床において頻繁に用いられている評価スケールがカバーする内容について検討を行った。リハビリテーション専門家に対するアンケートをベースとした項目セットに加え、臨床スケールによって実際に臨床で収集されている情報を加えることで、より臨床で活用しやすい項目セットとなることが期待される。この項目セットについては、さらに多数のリハビリテーション専門職によるブラッシュアップのプロセスを追加する予定である。

#### 3. 暫定版のICD11V章/ICFコーディングマニュアルの作成

今回ICFの臨床における実用を念頭に、コーディングガイドとして実用していくための解説資料を作成した。章のグループごとにコーディングの原則を定義したことで、より学習者にとってシンプルな構成となり、活用推進の助けになることが期待される。次年度にさらに臨床で実際の使用について検証を行い、第1版のリリースに繋げることを予定である。

### E: 結論

今年度の事業においては、ICF活用の実用を進めるべく、臨床スケールからの情報集約手法の開発、ICFの項目セットライブラリのブラッシュアップ、教育資料の作成を行った。次年度は、さらに臨床現場のリハビリテーション専門職のフィードバックを受けた上で、より社会実装の推進に向けた取り組みを実施する予定である。

### F. 健康危険情報

特になし

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

Umemori S, Ogawa M, Yamada S, Komatsu M, Oikawa E, Okamoto Y, Katoh M, Shirasaka T, Abiko K, Moriizumi S, Matsuo Y, Tohyama H,

Mukaino M. Development of a Conversion Table Linking Functional Independence Measure Scores to International Classification of Functioning, Disability, and Health Qualifiers: Insights from a Survey of Healthcare Professionals. *Healthcare (Basel)*. 2024 Apr 15;12(8):831.

## 2. 学会発表

Mukaino M, Umemori S, Komatsu M, Oikawa E, Yamada S. An Experimental Approach to Developing a Data Transfer Table from Existing Scales to the ICF. WHO-FIC Network Annual Meeting 2023, 16th-20th October, 2023, Bonn.

Mukaino M, Umemori S, Komatsu M, Oikawa E, Yamada S. Developing a Rating Reference Guide for the ICD-11 V Chapter and ICF: Japanese Experience. WHO-FIC Network Annual Meeting 2023, 16th-20th October, 2023, Bonn.

資料1 既存の評価スケールと ICF/ICD-11V 章の項目対応表

IADL 尺度	ICD-11 V	ICF 第二レベル項目	ICF 第三レベル項目
電話の使用	VW0Y その他の特定のコミュニケーション	d360 コミュニケーション用具および技法の利用	d3600 遠隔通信用具の利用
買い物	VW3Y その他の特定の家庭生活	d620 物品とサービスの入手	d6200 買い物
食事の用意	VW30 調理	d630 調理	
家事	VW31 家事を行う	d640 調理以外の家事	d6401 台所の掃除と台所用品の洗浄, d6402 居住部分の掃除, d6403 家庭用器具の使用, d6404 日常必需品の貯蔵, d6405 ゴミ捨て
洗濯	VW31 家事を行う	d640 調理以外の家事	d6400 衣服や衣類の洗濯と乾燥, d6403 家庭用器具の使用
徒歩以外での移動	VW16 交通機関・交通手段の利用	d470 交通機関や手段の利用	
指示通りの処方箋の服用	VW25 健康に注意すること	d570 健康に注意すること	d5702 健康の維持
金銭管理	VW5Y その他の特定の主要な生活領域	d870 経済的自給	

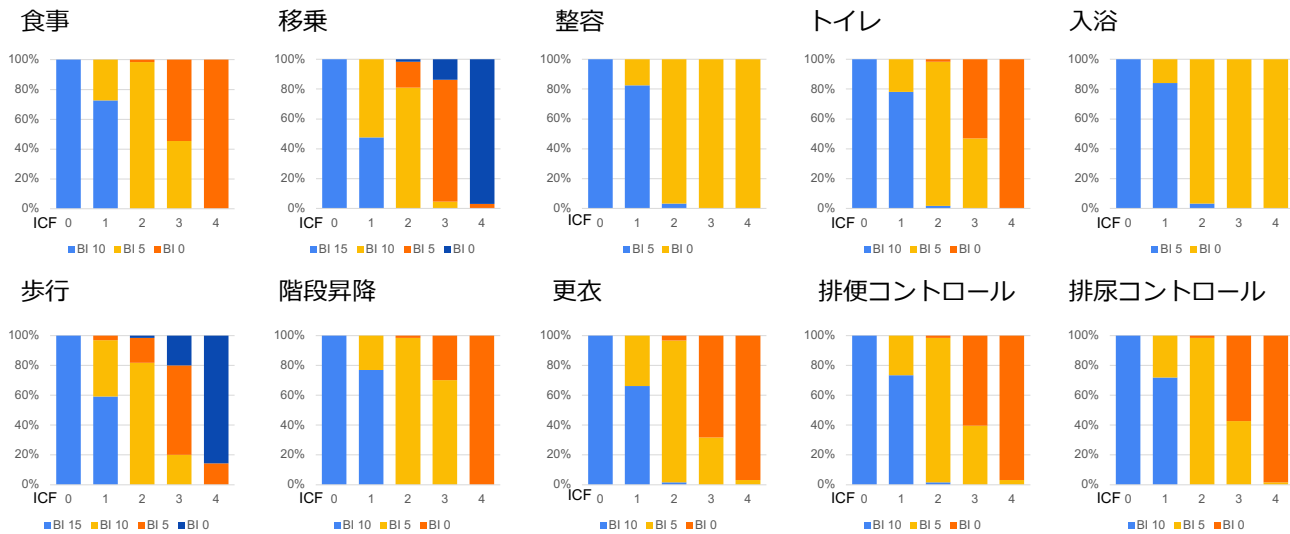
Frenchay Activities Index	ICD-11 V	ICF 第二レベル項目	ICF 第三レベル項目
洗濯	VW31 家事を行う	d640 調理以外の家事	d6400 衣服や衣類の洗濯と乾燥, d6403 家庭用器具の使用
掃除や整頓	VW31 家事を行う	d640 調理以外の家事	d6401 台所の掃除と台所用品の洗浄, d6402 居住部分の掃除, d6403 家庭用器具の使用, d6404 日常必需品の貯蔵, d6405 ゴミ捨て
力仕事	VW31 家事を行う	d640 調理以外の家事	d6408 その他の特定の家事
買い物	VW3Y その他の特定の家庭生活	d620 物品とサービスの入手	d6200 買い物
外出	VW1Y その他の特定の運動・移動	d460 さまざまな場所での移動	d4601 自宅以外の屋内移動、d4602 屋外の移動
屋外歩行	VW13 歩行	d450 歩行	d4501 長距離歩行、d4502 さまざまな地面や床面上の歩行、d4503 障害物を避けての歩行
趣味	VW60 レクリエーション及びレジャー	d920 レクリエーションとレジャー	
交通手段の利用	VW16 交通機関・交通手段の利用	d470 交通機関や手段の利用	
旅行	VW60 レクリエーション及びレジャー/VW16 交通機関・交通手段の利用	d920 レクリエーション及びレジャー/d470 交通機関や手段の利用	

庭仕事	VW3Y その他の特定の家庭生 活	d650 家庭用品の管理	d6505 屋内外の植物の手入れ
家や車の手入れ	VW3Y その他の特定の家庭生 活	d650 家庭用品の管理	d6501 住居と家具の手入れ/ d6503 乗り物の手入れ
読書	VW60 レクリエーション及び レジャー	d920 レクリエーションとレ ジャー	
勤労	VW50 報酬を伴う仕事	d850 報酬を伴う仕事	

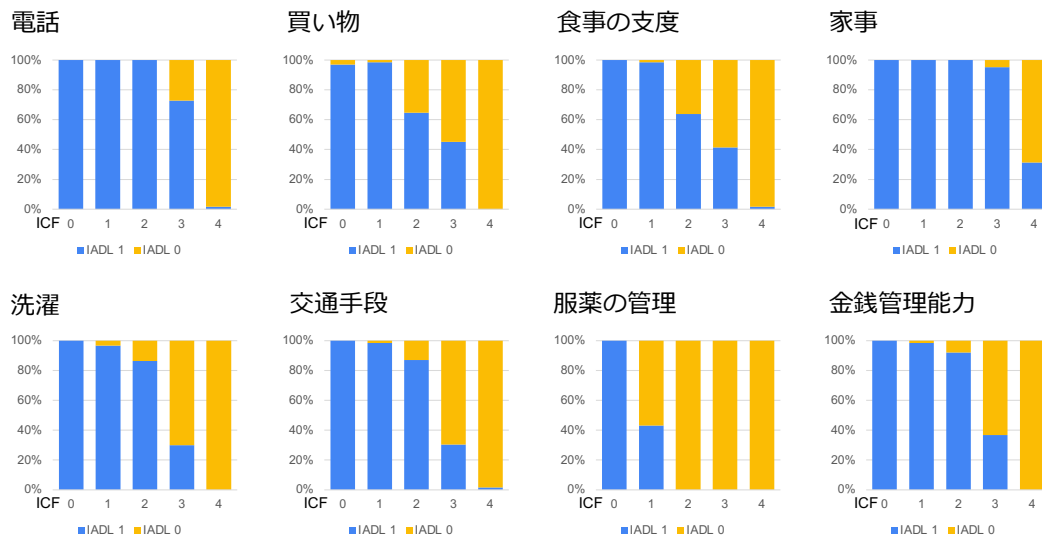
EQ5D	ICD-11 V	ICF 第二レベル項目
移動の程度	VW13 歩行	d450 歩行
身の回りの管理	VW21 身体各部の手入れ/VW23 更衣	d520 身体各部の手入れ/d540 更衣
ふだんの活動(例:仕事、勉強 、家族・余暇活動)	VW50 報酬を伴う仕事/ その他の特定の主要な生活領 域/ VW60 レクリエーション及 びレジャー	VW5Y d850 報酬を伴う仕事/d810- d839 教育/d920 レクリエーシ ョンとレジャー
痛み/不快感	VV12 痛みの感覚	b280 痛みの感覚
不安/ふさぎ込み	VV04 情動機能	b152 情動機能

資料2 Barthel Index および IADL 尺度の各項目の点数と、それに相当する ICF の評価点についてのリハビリテーション専門職の回答の分布

Barthel Index vs. ICF



IADL尺度 vs. ICF





資料2 つづき

中央値に基づくスケール- ICF 換算表

Barthel Index		移乗		整容		トイレ		入浴		
食事		ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	
ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	
	0	10	0	15	0	5	0	10	0	5
	1	10	1	10	1	5	1	10	1	5
	2	5	2	10	2	0	2	5	2	0
	3	0	3	5	3	0	3	0	3	0
	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0
歩行		階段昇降		更衣		排便コントロール		排尿コントロール		
ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	ICF	BI	
	0	15	0	10	0	10	0	10	0	10
	1	15	1	10	1	10	1	10	1	10
	2	10	2	5	2	5	2	5	2	5
	3	5	3	5	3	0	3	0	3	0
	4	0	4	0	4	0	4	0	4	0
IADL 尺度		買い物		食事の支度		家事				
電話		ICF	IADL	ICF	IADL	ICF	IADL			
ICF	IADL	ICF	IADL	ICF	IADL	ICF	IADL			
	0	1	0	1	0	1	0	1		
	1	1	1	0	1	0	1	1		
	2	1	2	0	2	0	2	1		
	3	1	3	0	3	0	3	1		
	4	0	4	0	4	0	4	0		
洗濯		交通手段		服薬の管理		金銭管理能力				
ICF	IADL	ICF	IADL	ICF	IADL	ICF	IADL			
	0	1	0	1	0	1	0	1		
	1	1	1	1	1	0	1	1		
	2	1	2	1	2	0	2	1		
	3	0	3	0	3	0	3	0		
	4	0	4	0	4	0	4	0		

資料3 ICD-11V 章の実用的な項目セットと既存の臨床スケールとの ICD-11V 章/ICF に基づく対応表

	対応する ICF コード	最小	短縮版	標準版	拡張版	G-7	G-30	FIM	BI	EQ5D	IADL
VW00 活力及び欲動の機能	b130			○	○	○	○				
VW01 睡眠機能	b134		○	○	○		○				
VW02 注意機能	b140			○	○						
VW03 記憶機能	b144			○	○			○			
VW04 情動機能	b152		○	○	○	○	○			○	
VW10 視覚及び関連機能	b210			○	○						
VW11 聴覚及び前庭の機能 (前庭覚)	b235			○	○						
VW11 聴覚及び前庭の機能 (聴覚)	b230				○						
VW12 痛みの感覚	b280		○	○	○	○	○			○	
VW20 音声及び発話に関連する機能	b3				○						
VW30 運動耐容能	b455			○	○		○				
VW40 消化器系に関連する機能 (消化吸収・排便)	b515-b525	○	○	○				○	○		
VW40 消化器系に関連する機能 (摂食)	b510		○	○	○						
VW50 排尿機能	b620		○	○	○		○	○	○		
VW51 性機能	b640						○				
VW60 関節の可動性の機能	b710				○		○				
VW61 筋力の機能	b730		○	○	○		○				
VW70 皮膚及び関連する構造の機能	b8										
VW80 基礎的学習	d130-d159				○						
VW81 問題解決	d175			○	○			○			
VW90 日課の遂行	d230			○	○	○	○				
VW91 ストレス及びその他の心理的要求への対処	d240				○		○				
VW00 話し言葉の理解	d310				○			○			
VW01 会話	d350				○			(○)			
VW10 立位の保持	d4154				○		(○)				
VW11 乗り移り (移乗)	d420		○	○	○		○	○	○		
VW12 物の運搬、移動及び操作	d430-d449				○						
VW13-15 いずれかの移動	d450/d460/d465	○	○	○	○						
VW13 歩行 (屋外・悪路)	d450					○	○	○	○	○	
VW13 歩行 (屋内)	d450					○	○	○	○	○	
VW14 自宅内の移動	d460										
VW15 用具を用いての移動	d465						○	○	○		
VW16 交通機関・交通手段の利用	d470						○				○

VW20 自分の身体を洗うこと	d510		○	○	○		○	○	○	
VW21 身体各部の手入れ	d520		○	○	○		○	○	○	○
VW22 排泄	d530	○	○	○	○		○	○	○	
VW23 更衣	d540		○	○	○		○	○	○	○
VW24 食べること	d550	○	○	○	○		○	○	○	
VW25 健康に注意すること	d570				○		○			○
VW30 調理	d630									○
VW31 家事を行う	d640				○		○			○
VW32 他者への援助	d660						○			
VW40 基本的な対人関係	d710						○	○		
VW41 よく知らない人との関係	d730									
VW42 親密な関係	d770						○			
VW50 報酬を伴う仕事	d850						○	○		○
VW60 レクリエーション及びレジャー	d920						○			○
VW61 人権	d940									

↓対応コードが ICF のみに存在する項目

d315 非言語的メッセージの理解								○		
d330 話すこと								○		
d335 非言語的メッセージの表出								○		
d360 コミュニケーション用具および技法の利用 (d3600 遠隔通信用具の利用)										○
d410 基本的な姿勢の変換							○			
d420 姿勢の保持							○			
d451 階段昇降								○	○	
d455 移動						○	○			
d460 さまざまな場所での移動										
d620 物品とサービスの入手 (d6200 買い物)										○
d650 家庭用品の管理 (d6505 屋内外の植物の手入れ, d6501 住居と家具の手入れ, d6503 乗り物の手入れ)										○
d810-d839 教育										○
d870 経済的自給										○

最小版 短縮版 標準版 拡張版 G-7 G-30 FIM BI EQ5D IADL

最小版、短縮版、標準版、拡張版：ICD-11V 章をベースとした項目セットライブラリ案; G-7、G-30: ICF 一般セット 7 項目版および 30 項目版; FIM: Functional Independence Measure Index; EQ5D: Euroqol 5 Dimension; IADL: IADL 尺度 (Lawton&Brody) ; FAI: Frenchay Activities Index

#### 資料 4 修正した項目セットライブラリ案

最小セット

VW13-15 いずれかの移動

短縮版評価セット

(活動 7+1、心身機能 6 項目)

活動

(VW13 歩行/VW14 自宅内での移動/VW15 用具を用いた移動)  
VW22 排泄  
VW24 食べること

VW11 乗り移り (移乗)  
VW13/15 いずれかの移動  
(VW13 歩行/ VW15 用具を用いた移動)  
VW20 自分の身体を洗うこと  
VW21 身体各部の手入れ  
VW22 排泄  
VW23 更衣  
VW24 食べること  
(+d451 階段昇降)

心身機能

VV01 睡眠機能  
VV04 情動機能  
VV40 消化器系に関連する機能 (摂食)  
VV40 消化器系に関連する機能 (消化吸収・排便)  
VV50 排尿機能  
VV61 筋力の機能

---

資料4 修正した項目セットライブラリ案 (続き)

標準版評価セット (活動 9+2、心身機能 13 項目)	拡張版評価セット (活動 21+2、心身機能 16 項目)
活動	活動
VV81 問題解決	VV80 基礎的学習
VV90 日課の遂行	VV81 問題解決
VW00 話し言葉の理解	VV90 日課の遂行
VW11 乗り移り (移乗)	VV91 ストレス及びその他の心理的要求への対処
VW13/15 いずれかの移動 (VW13 歩行/VW15 用具を用いた移動)	VW00 話し言葉の理解
VW20 自分の身体を洗うこと	VW01 会話
VW21 身体各部の手入れ	VW11 乗り移り (移乗)
VW22 排泄	VW12 物の運搬、移動及び操作
VW23 更衣	VW13/15 いずれかの移動 (VW13 歩行/VW15 用具を用いた移動)
VW24 食べること	VW16 交通機関・交通手段の利用
VW40 基本的な対人関係 (+d330 話すこと) (+d451 階段昇降)	VW20 自分の身体を洗うこと
心身機能	VW21 身体各部の手入れ
VV00 活力及び欲動の機能	VW22 排泄
VV01 睡眠機能	VW23 更衣
VV02 注意機能	VW24 食べること
VV03 記憶機能	VW25 健康に注意すること
VV04 情動機能	VW30 調理
VV10 視覚及び関連機能	VW31 家事を行う
VV11 聴覚及び前庭の機能 (前庭覚)	VW40 基本的な対人関係
VV12 痛みの感覚	VW50 報酬を伴う仕事
VV30 運動耐容能	VW60 レクリエーションおよびレジャー (+d3600 遠隔通信用具の利用) (+d6200 買い物)
VV40 消化器系に関連する機能 (摂食)	心身機能
VV40 消化器系に関連する機能 (消化吸収・排便)	VV02 注意機能
VV50 排尿機能	VV03 記憶機能
VV61 筋力の機能	VV10 視覚及び関連機能
	VV11 聴覚及び前庭の機能 (聴覚)
	VV11 聴覚及び前庭の機能 (前庭覚)
	VV00 活力及び欲動の機能
	VV01 睡眠機能
	VV04 情動機能
	VV12 痛みの感覚
	VV20 音声及び発話に関連する機能
	VV30 運動耐容能
	VV40 消化器系に関連する機能 (摂食)
	VV40 消化器系に関連する機能 (消化吸収・排便)
	VV50 排尿機能
	VV60 関節の可動性の機能
	VV61 筋力の機能